

165 オリーブ山での説教(1)

マタイによる福音書 24 : 1~8、マルコ 13 : 1~8、ルカ 21 : 5~11

.....前回に続き、ニサンの月の12日(火曜日)の出来事である.....

▶**神殿の崩壊を予告する** (マタイによる福音書 24 : 1~2、マルコ 13 : 1~2、ルカ 21 : 5~6)

01 イエスが神殿の境内を出て行かれると、弟子たちが近寄って来て、イエスに神殿の建物を指さした。
→ (リビング・バイブル) イエスが宮から出ようとしておられた時、弟子の一人が言いました。「先生、これはまあ、なんと美しい建物でしょう。なんと見事な石でしょう。」

→マタイによる福音書の対象は、ユダヤ人を想定しており、彼らにとって当然なことは記していない。

→マルコによる福音書 13 : 1

イエスが神殿の境内を出て行かれるとき、弟子の一人が言った。「先生、御覧ください。なんとすばらしい石、なんとすばらしい建物でしょう。」

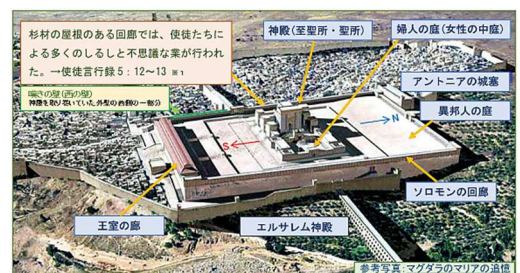
→マルコによる福音書の対象は、異邦人(特にローマ人)を想定しているので、表記に具体性がある。

02 そこで、イエスは言われた。

「これらすべての物を見ないのか。はっきりしておく。一つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない。」

→ (リビング・バイブル) すると、イエスはお答えになりました。「なるほどすばらしいものです。しかし、この建物も、たった一つの石さえほかの石の上に残らないほど、あとかたもなくくずれ落ちてしまうのです。」

→ソロモンが建てた神殿は、バビロニア王国により破壊されたが、再建された。ヘロデ大王の大規模な修理拡張工事が始まり、イエスの時代には周囲に回廊を巡らした広い境内と大理石の本殿があった。神殿は、ソロモン王によって建てられた最初の神殿と同じ位置に、一辺が9m以上もある大きな石材を用いて、周囲 1500mを超える規模で拡張された。しかし、ローマ軍はエルサレムを攻略し、神殿を破壊した (AD70年)。



【参考】 神殿

第一 神殿 (ソロモン神殿)

BC1000年頃、イスラエルの二代目の王ダビデ(在位: BC1010~970頃)が建設を計画し、その息子のソロモン王(在位: BC 971~BC 931頃)によってエルサレムに建設された神殿(ソロモンがイスラエルを支配してから4年目に建設を始め7年後に完成した)。

BC 587/586年、バビロン(バビロニア軍)のネブカドネツアル二世がエルサレムを占領(エルサレム攻囲戦)、ユダヤ人はバビロンに捕囚となり、神殿も破壊された。

第二 神殿 (エルサレム神殿、ヘロデ神殿、ゼルバベルの神殿) →ヘブライ語で「ヤハウエの家」と呼ばれた。

BC 539年頃、ペルシアのキュロス二世がバビロンを占領、バビロンに捕囚となっていたユダヤ人は解放され、帰国と神殿の再建を認めた。バビロンのネブカドネツアル二世によって破壊されたソロモンの第一神殿に代わって、BC 515-ダレイオス王の治世第六年(BC 516年)に、エルサレムの神殿の丘に建設された神殿(近隣の民による絶えざる妨害により、神殿再建の事業はBC 536年から520年まで中断を余儀なくされた→エズラ記 4 : 4~5、6 : 14~15)。後、ヘロデ王(在位: BC 37年~BC 4年)がBC 20年から増改築工事を開始し(理由: ユダヤ人を懐柔するため)、AD 64年によりやく完成したことから、ヘロデ神殿とも呼ばれる。AD70年、ローマ軍によって破壊され、現在は「嘆きの壁」と呼ばれる外壁の一部が残っている。

AD 7世紀末には、この地にイスラム教のモスク(アクサ・モスクおよび岩のドーム)が建てられた。

第三神殿 (未完成)

ユダヤ人がエルサレムの「神殿の丘」に再建しようとしている神殿。

大苦難(患難)時代の後半の3年半が始まる時点では、第三神殿は建設されている(ただ、預言されていない)。

岩のドーム(右図)は、イスラム教最大の聖地メッカのマスジド・ハラームの中心部にある「カアバ」、「預言者のモスク」(サウジアラビア西部の都市メジナにあるイスラム寺院)に次ぐ、東エルサレムにあるイスラム教の第3の聖地で、現在はイスラム教徒の管理下にある。南西の壁の外側の一部だけが「嘆きの壁」(右上図)としてユダヤ教徒の管理下にある。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教にとって重要な関わりを持つ聖なる岩(Foundation Stone)を祀っている。



【参考】エルサレム攻囲戦

AD70年4月14日、エルサレムにおいてユダヤ属州のユダヤ人と後にローマ皇帝(在位:79~81年)となるティトウス(ラテン語: Titus)が率いるローマ軍の間に起きた攻囲戦(攻城戦)である。これによりローマ軍は、エルサレムを陥落、市街地のほか、BC1世紀末にヘロデ大王によって増修築された、聖地エルサレム神殿(○印)も破壊した。

一部のユダヤ人はマサダ砦に逃れ、73年に玉砕するまで戦い続けた。このローマ帝国との攻囲戦で国を失ったユダヤ民族は各地に離散した(ディアスポラ※1)。

そして、神殿が崩壊した日は、ユダヤ教とユダヤ人の歴史の中で、「民族の悲劇の日」とされ、「ティッシュア・ベ=アーブ」と呼ばれる悲しみの記念日とされている。

左図:当時のエルサレム市街。○がエルサレム神殿、青の矢印がローマ軍の攻撃の経路。

④もともとティトウスは兵士たちに神殿の金品を強奪するため、神殿を破壊しないように命じていた。

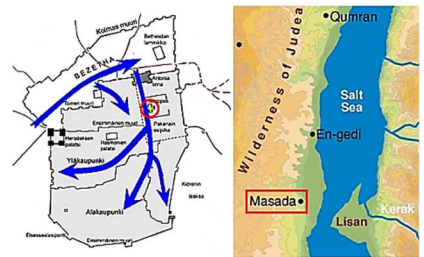
※1:ディアスポラ Diaspora(民族離散)は、「(種などが)撒き散らされたもの」(ディア[分散する]+スピロ[種をまく])という意味のギリシア語に由来する言葉です。

①中世以降ドイツ、次いで東欧に移住し、ナチスのホロコーストの犠牲になった「アシュケナジム」や②スペイン、北アフリカなどに移住した「セファルディム」は有名である。

同じ意味で、③華僑、印僑、日本人のディアスポラ(日系人)などにも使われている。

また、ディアスポラは、元の国家や民族の居住地を離れて暮らす国民や民族の集団ないしコミュニティ等も指すようにもなった。

参考・出典(左図):ウィキペディア「エルサレム攻囲戦」他



▶終末の徴(マタイによる福音書24:3~8、マルコ13:3~8、ルカ21:7~11)

03 イエスがオリーブ山で座っておられると、弟子たちがやって来て、ひそかに言った。

「おっしゃってください。①そのことはいつ起こるのですか。また、②あなたが来られて③世(→時代 the age=アイオーン)の終わるときには、どんな徴があるのですか。」

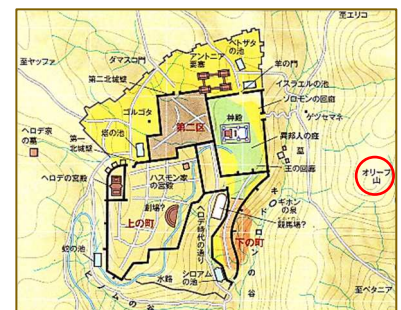
→マルコによる福音書13:3

イエスがオリーブ山で神殿の方を向いて座っておられると、ペトロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかに尋ねた。

→(リビング・バイブル)イエスがオリーブ山で、宮のほうを向いて座っておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレがこっそりイエスに尋ねました。「いったいつ、神殿にそんなことが起こるのですか。そうなる前に、何か前兆でもあるのでしょうか。」

→オリーブ山(海拔800m程、標高818m)は、パレスチナを貫いて連なる山々の一部で、その尾根は約4kmにもなる。斜面に生息するオリーブからその名が採られた。

→世⇒時代=アイオーン(ギリシア語、ラテン語: aeon):ある期間の時間を指し、時代や世紀、人の生涯という意味である。



04 イエスはお答えになった。

「人に惑わされないように気をつけなさい。

05 わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがメシアだ』と言って、多くの人を惑わすだろう。

06 戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞かろうが、慌てないように気をつけなさい。そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない。

07 民は民に、国は国に敵対して立ち上がり（→戦争）、方々に飢饉や地震が起こる。

08 しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりである。

→（リビング・バイブル）そこで、イエスはゆっくり話し始められました。「だれにもだまされてはいけません。自分こそキリストだと名乗る者が大ぜい現れて、多くの人を惑わすからです。また、あちこちで戦争が始まるでしょう。けれども、まだ終わりが来たわけではありません。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、至る所で地震やききんが起きます。しかしこれらはみな、やがて襲って来る苦しみの、ほんの始まりにすぎないのです。

→ルカによる福音書 21：11

そして、大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる。

【参考】新約聖書にある「産みの痛み」を含む聖句

タイトル(書名)	章:節 聖句	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙：産みの痛み]
S マタイによる福音書	24:8	しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりである。
S マルコによる福音書	13:8	民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に地震があり、飢饉が起こる。これらは産みの苦しみの始まりである。
S ローマの信徒への手紙	8:22	被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。
S ガラテヤの信徒への手紙	4:27	なぜなら、次のように書いてあるからです。「喜べ、子を産まない不妊の女よ、／喜びの声をあげて叫べ、／産みの苦しみを知らない女よ。一人取り残された女が夫ある女よりも、／多くの子を産むから。」
S テサロニケの信徒への手紙 I	5:3	人々が「無事だ。安全だ」と言っているそのやさきに、突然、破滅が襲うのです。ちょうど妊婦に産みの痛みがやって来るのと同じで、決してそれから逃れられません。

なお、旧約聖書には「産みの痛み」が 12 聖句に登場する。